函館チェスクラブ公式競技会ルール

目次

五原則
常識とされるマナー
意思表示の仕方
注意すべきルール
ブリッツの特殊ルールとマナー
U S C F 公式ルール目次
レイティングについて

5 原則

- 1 常にマナー向上に努める
- 2 競技会はU S C F 公式ルールに従う
- 3 タッチアンドムーブ
- 4 公式試合に口出しできるのは対局者と審判だけ
- 5 T D (審判長) の判断を最終決定とする

常識とされるマナー

- ・ 試合の前後、お互いに礼、または握手をする。
- ・ 駒の位置を直す場合は「ジャドゥーブ」
「失礼」などと宣言してから行う。
- ・ 偶然、駒に触れてしまった場合もタッチアンドムーブが適用される。
ただし、わけを説明して相手に許しを求めることは可能である。
その場合、やり直しを許すか許さないかは相手次第である。
- ・ 時計の左右位置は黒番が決める。
- ・ 駒を動かしたほうの手で時計のボタンを押す。
- ・ 「チェック」は言う必要がなく、言わないことが普通である。
- ・ 戦意を喪失したら、ただちに投了すべきである。

- ・逆転の可能性がない局面で相手の時間切れだけを狙うことは、棋士として恥ずかしい行為である。
- ・勝敗より棋士としてのプライドの方が大切である。

意思表示の仕方

- ・投了する場合は、「リザイン」、「負けました」と言うか、単にキングを倒す動作をする。
この宣言をせずに試合を放棄してはいけない。
- ・ドローを提案する場合、自分の指し手の後で「ドロー？」と提案し、時計を押す。
この提案は相手が指し手を完了するまで有効。
- ・ドローを提案されて、受け入れない場合、「いいえ」と言うか、単に次の手を指すことで拒否を伝える。
- ・ステールメイト、同一局面3回発現、メイトの駒不足などはドロー。
- ・相手の持ち時間が切れた場合は「フラッグ」、または「旗が落ちました」と言ったとき初めて勝負がつく。
この宣告がなければ試合は有効のまま続行される。
つまり、時間が切れた後に勝負がつく場合もあり得ることになる。

注意すべきルール

- ・観戦者が他人の公式ゲーム中に口出しするのは厳禁である。
「あなたは持ち時間切れです」、「メイトですね」と教えることは、親切どころか重大な違反行為である。
(初心者に対しては厳密に適用しない。)
- ・プレイヤーは棋譜を自分自身で記録する義務がある。
持ち時間が5分以内になったときはその限りではない。
(初心者に対しては厳密に適用しない。)
- ・開始時に駒の配置、持ち時間を確認する義務がある。
- ・対戦相手、先手後手、試合条件はTDに従う。
- ・クイーンに成るとき、駒がなければルークをさかさまにして使う。
- ・キングのみで勝つことはできない。最大でドローとなる。
- ・例外なく公式競技会には必ずTD(審判長)を置く。

- ・不測の事態が生じたときは、時計を止めて審判員を呼ぶことができる。

審判の役目

- ・ルール、試合条件については試合前に公表する。
- ・競技進行、試合結果の判定について、最終決定権がある。
- ・参加者の試合没収、退場などを宣告する権限がある。
- ・児童、身体障害のある競技者には最大限の便宜を図る。
- ・すべての参加者に対して公平にペアリングし、ルールを適用する。

ブリッツの特殊ルールとマナー

- ・持ち時間5分切れ負けのチェスをブリッツという。
- ・ブリッツではキングを取ることができる。(普通は絶対にできない)
- ・ルール外の手があった場合、駒の配置が乱された場合は時計を押し返すことができる。
- ・相手の持ち時間切れでしか勝てない局面の場合、自らの判断でドロウを提案することがある。多くの場合、それがマナーにかなっている。